



予想より残雪少なく藪漕ぎ 白山周辺 日照岳(1751.3m) (積雪期ピークハント ／縦走 / 白山)

by



gekiyabu

日程：

2012年05月05日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

快晴

地図：



標高グラフ：

コースタイム：

5:31 送電線巡視路入口--5:43 送電鉄塔--5:53 送電鉄塔--6:03 送電鉄塔--6:46
1305.8m三角点--7:01 1410m峰(踏跡終了)--8:02 1645m峰--8:40 日照岳 9:30--
9:53 1645m峰--10:23 1410m峰--10:29 1305.8m三角点--10:48 送電鉄塔--10:53
送電鉄塔--10:56 送電鉄塔--11:02 送電線巡視路入口

コース状況／その他周辺情報：

- ・ 登山道が無い山で主に残雪期に登られる
- ・ 登山ポストなし
- ・ 送電線巡視路入口が登山口代わり。国道を挟んだ反対側に広い駐車場がある

- ・ 地形図では標高1500m付近まで破線が書かれているが、実際は踏跡は1410m峰までしか存在しない
- ・ 標高1440mの平坦区間は灌木藪が一番ひどい
- ・ 標高1440mの平坦区間が終わり登りにかかると藪が薄くなり歩きやすくなる。雪はほとんど消えてしまった
- ・ 標高1500～1550m付近のみ残雪あり
- ・ 1645m峰への登りは低い笹で灌木はなくうっすらと踏跡あり
- ・ 1645m峰は展望良好
- ・ 1645m峰から日照岳をつなぐ尾根は残雪利用可能箇所多い。尾根上は笹と灌木藪
- ・ 日照岳北東尾根への登りは雪が消えて激笹藪漕ぎ。無雪期はたぶん稜線上も激笹藪
- ・ 日照岳北東尾根直上及び北側は残雪たっぷり
- ・ 日照岳は展望良好。三角点は出ていた

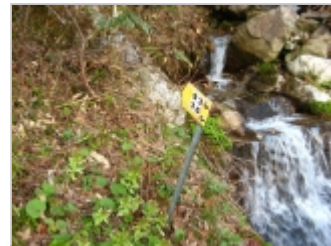
 写真：



巡視路入口反対側の駐車場



送電線巡視路入口



送電線巡視路標識



最初から明瞭な道



尾根を登る



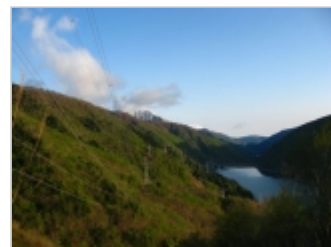
最初の送電鉄塔



2つ目の送電鉄塔



3つ目の送電鉄塔



御母衣湖を見下ろす



送電鉄塔を通過しても良好な道が続く



植林が終わっても道はまだ続く



尾根上部にもほとんど雪が見えない



1305.8m三角点



やっと山頂が見えたが雪が少ない



標高1370m付近



1410m峰で踏跡終了



灌木+笹藪に突入



標高1440m平坦尾根。灌木藪がひどい



登りにかかると笹中心で歩きやすくなる



標高1500m付近。傾斜が緩んでいる間のみ残雪が使えた



でも完全に雪が連続しているわけではない



また残雪が現れる



1570m付近。残雪はいつ



1465m峰への登り。低い

たん終了



1465m峰

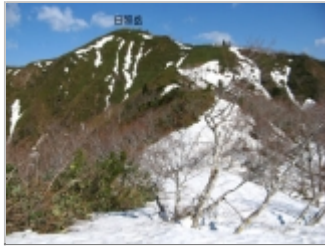


1465m峰から見た日照岳

笹で薄い踏跡あり



1465m峰から見た郡界尾根の山々



1465m峰～日照岳間の尾根は多くの区間で残雪利用可能



カモシカの足跡



1465m峰を振り返る



間もなく残雪区間終了



藪に突入。入口は灌木だが稜線まで深い笹藪



稜線に出て北東を見る



山頂方向。雪が続いていた



日照岳山頂



日照岳三角点



日照岳から見た白山



日照岳から見た猿ヶ馬場山

感想／記録：(by gekiyabu)

当初予定では猿ヶ馬場山だったが、白川郷から見上げる斜面にはあまりにも雪が無く、長距離の藪漕ぎが予想されたため日照岳に変更。ここは東向きの尾根なので雪の残りはマシだとの読みもあった。また、地形図では途中まで破線があり、雪が無くても途中まで藪漕ぎの必要が無いのもポイントだ。したがって登山口は破線起点、スノーシェッド入口となる。たぶん送電線巡視路兼用だろう。

地形図を見ながら車を進めると、破線起点の道路を挟んだ反対側に広い駐車場があって助かった。周囲はスノーシェッドやトンネルの連続で駐車可能個所は非常に少ない。地形図の破線が存在するかも心配だったが、送電線巡視路の小さな標識を発見してほっとする。送電線があるうちはまともな道が続くのは確定だ。

小さな沢を渡って尾根に取り付いて登っていく。刈り払われた明瞭な巡視路で目印も多い。木の高い場所に結ばれたリボンもあるので残雪期にこの尾根から日照岳に登った登山者が付けたものだろう。古い地形図を見ればわかるが送電線は3系統通っているので送電鉄塔は3基通過する。最後の鉄塔を過ぎてもまだ道が続く。多少グレードは落ちるが全く問題なし。尾根南側は植林帯なのでその作業用か。

地形図では破線は標高1120mくらいから尾根を外れて南の谷を登るようになっているが、実際の夏道は尾根上に続いていた。植林帯が終わってから徐々に道が薄くなっていくが踏跡レベルはあって充分役立ってくれた。1305.8mの4等三角点で現在位置を確認。未だ残雪は現れない。

なおも登って1460m小ピークで踏跡は南南西の尾根に逃げて行ってしまい、西向きの尾根は笹と灌木藪。雪は全く無く予想外の藪漕ぎ開始。最初は笹と灌木の混合藪だったが、標高1440mの平坦区間はほぼ灌木のみとなり、尾根直上は枝を四方に伸ばした厄介な灌木が多くガクッとスピードが落ちる。藪漕ぎには手に持ったピッケルが邪魔だが、この先でピッケルの出番が無いとも限らないのでデポするわけにもいかず、ザックにくくれば背中ではひっきりまくるし……。ズボンを履いているのに脛は傷だらけだったし、手袋をしなかった手も引っかき傷だらけ。

平坦区間が終わると背の高いブナ林が中心となり、灌木が消えて薄い笹に変わって一気に歩きやすくなる。標高1500～1570mの緩斜面帯でやっと雪が出てきて速度が上がるが、傾斜が増すとまた雪が消えて藪漕ぎに戻ってしまう。ただ、今度の藪は膝から腰程度の高さの笹で、うっすらと踏跡も見られて比較的歩きやすく灌木藪よりはるかにいい。1645m峰てっぺんも低い笹で展望がいい。日照岳はもう目の前で、そこに続く尾根の東側は雪が付いた部分が多く藪漕ぎは限定的のようだが、山頂付近は南斜面を見ているからだろうか雪は皆無で、尾根の裏側に雪が無ければあちらも笹藪漕ぎだろう。

1645m峰から下りにかかり、笹藪を越えて雪にありつくが、最初の雪田は途切れてしまい、少しの間、灌木と笹の混合藪を突っ切る。尾根直上は灌木混じりで通過に難儀するため少しばかり西側の笹藪中を進む方が楽であった。尾根東直下に雪が見えるとそちらに乗り換え。やっぱ雪は滅茶苦茶楽だ～。真新しいカモシカの足跡が2頭分。私と逆方向で下りであった。

尾根が水平移動から登りに変わると残雪が消えて深い笹藪に変貌する。日照岳の尾根は高い木はなくほぼ笹のみで、南斜面だからだろうか、密度は濃く背丈を越える高さだ。漕ぐしかないので久々の平泳ぎ。根曲がり竹ではなく両手で開くので密度が高いとはいえ灌木よりずっといい。しかし、笹が雪から立ち上がってからそれなりに時間が経過しているようで、笹の葉に毛虫が付いているのがイヤらしい(数は少ないはず)。おまけに下山後に笹ダニ1匹退治したのでダニも出始めているようだ。藪に突っ込まないと山頂到達できないので皮膚の露出を少なくして藪漕ぎ続行。露岩は笹が無いのでよじ登って少しだけ楽をする。

露岩を登ると日照岳北東尾根に飛び出した。見上げた時には尾根直上や北斜面の様子は見えなくて、南斜面は雪が消えて一面の笹藪でこのまま笹藪が続いたらどうしようと思っていたが、実際には尾根直上から北斜面はべったりと雪が付いていて、山頂までは藪漕ぎ不要の状況だった。この尾根を登った方が良かったかなとも考えたが、標高が落ちれば間違いなく藪が出ているはずで、尾根上に夏道が無ければ灌木藪の可能性もある。今回の選択は正しかったと信じよう。

ある程度古いスキーのトレースらしい跡があったが、本当にスキー跡なのかは確信はなかった。人間の足跡は判別できなかったが、この気温では1日経過すれば足跡など消えてしまう。最後の最後で藪から解放され、気持ちよく雪の尾根を登りきれば日照岳山頂。半分雪に埋まったダケカンバに割れた山頂標識が付けられていた。山頂の雪は尾根北側の広い範囲に付いているが尾根直上は既に雪が消えていて、三角点周囲も雪が消えて三角点を目にすることができた。今までの雪の少なさが嘘のようで、日照岳より西側の尾根は残雪が続き、快適に歩けそうだった。傾斜が無いからであろう。日照岳に御母衣湖側から登るのならあと2週間くらい早く登らないと雪は期待できないようだ。山頂の展望はよいが白山山頂部は雲が被ったままだった。猿ヶ馬場山もあまり白さが無い。南から見ているからかな。山頂で休憩。日差しがあって暖かい。今日も日焼けするかな。でも風があるし、暑いと感じるほどではなかった。

下山は往路を辿る。往路で一番厄介な藪は標高1440mの平坦区間だったが、傾斜がないので復路でも苦労した。標高が下がると気温が上昇、汗が噴き出した。登山口の小さな沢で少し水浴びし、汗を洗い流してさっぱりした。